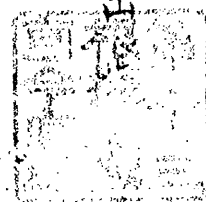


第十三根據地隊機密第八號ノ五

軍機

自昭和十九年二月一日
至昭和十九年二月二十九日

六月二日提出



第十三根據地隊戰時日誌

第十三根據地隊司令部

194
月

19.6.23
1364

目次

一 経過

二 人員、現状

三 令達報告等

四 参考

五 作戦経過概要

六 會計経理

目次終

1365

自昭和十九年二月一日 第十三根據地隊戰時日誌
至昭和十九年二月二十九日

一 経過

一 敵情

敵之反攻ハ依然本格的ナラズシテ我全局ノ主動性ヲ確保シアリ
即チ敵我カヲドビ方面攻勢開始以來狼狽ノ極ニ対抗
策トシテ戰場附近ニ空軍兵力ヲ集中シ又逐次ヲツタゴビニ方
面ニ兵力ヲ増強スル等ノ措置ヲ講スルト共ニカラダシ河谿ヨリ一
支隊ヲ南下我北岸後ヲ突キ我ヲ牽制セシメ北緬ニ於テハ新編
第一軍ヲシテマインカビ方面ニ攻勢ヲ執ラシメ且對重慶政略
的効果ヲ覬ヒアルモノノ如ク判断セラル西南沿岸ニ對スル大規模
上陸企圖未ダ之ヲ認メズ

(4) 北部印緬國境

敵依然執拗ニ眞面目ナル攻撃ニ依リ據點推進ヲ續行シ逐
次南下ノ傾向アリ此ノ方面ニ對スル敵ノ関心増大シツツアルヲ
認メラレ警戒ハ要アリ

(四) 中部印緬國境

當正面ノ敵ハ逐次第一線近ク兵カラ推進シアリテ狀況稍
活況ヲ呈シツツアリ

(ハ) 南部印緬國境

「アチド」正而敵第七師団ハ楯兵団主力ノ包圍猛攻ニ依
リ殲滅的打撃ヲ受ケテ殆ト再起不能ノ状態ニ陥入レリ敵楯
兵團ノ次期作戰準備爲「アチド」モントウ「道」ニ轉進セルニ
伴ヒ新部隊(第二六師団ト認メラル)及「マユ」山系以西地区ヨ
リ「トングバカ」「ホリバカ」方面ニ兵カラ増強シ第七師団ノ

残部ト合流目下其ノ第一線ハ「ホニコリ」(「アチド」西北三料)西方
高地ニアリ「モンドウ」正面敵第五師団ハ依然同地ニ躊躇シ
「モンドウ」ホリバザ」道ノ陸上運行及「アチド」河艦船航行ノ
狀況逐日活況ヲ呈シアリテ新部隊進出ニ伴ヒ「ホニコリ」半島
ヨリ側面的補給ヲ爲シ「アルモノ」如シ「カラダ」河谷方面ニ
敵約(五〇)ハ其ノ後方ノ整備「アレゴン」附近飛行場ノ急設
又「アレゴン」サートビン道ノ改修ト相俟ツテ逐次「カラダ」河兩
岸ニ沿ヒ南下レツツアリ海正面ニ對シテハ依然嚴戒ヲ要スルモノ
アリテ三日〇三「シムレー」島ニ對シ小艦艇ノ銃砲撃ニ十日〇六四五
「アチド」北方ニ對シ小部隊ノ上陸ニ十七日〇三四〇「アキヤガ」西方ニ
對シ小艦艇ノ砲撃ヲ實施セリ

(二) 空軍情況

敵機、出撃す、依然活潑ニシテ、アキヤブ、第一線地区、対シ益々
熾烈ヲ極ムト共、マンダレ山、モルム、カアム、タウシガツ、等我が
重要補給路、妨害並ニ飛行場爆撃ニ重兵ヲ指向シアリ
最近敵機ハ烈シク、兵団方面、夜間、運行自動車ヲ襲撃
シ、該方面ニ於テハ、我が作戦準備、妨害ヲ企図シタルモノ、如シ
西南沿岸方面及泰國ニ對スル出撃、台前月ニ比シ、稍低調ヲ示
セリ

在印敵空軍ノ兵力、甚ニ配置、閑シクハ大ナル変化ヲ確認シ得サル
モ、諸情報ヲ綜合スルニ、東部、印度米空軍ノ有力ナル一部（特爆
撃隊ノ一部）ハ西南支那方面ニ轉進セルモノ、如シ

緬印國境周邊（特ニ「イムハール」「シルチャ」及「コックスバザール」附近）敵
飛行場ノ新設増強ハ顯著ニシテ、特ニ「イムハール」平地ニ於テ長
サ約四〇〇〇米幅約三〇〇米ノ大滑走路、新設ハ「グライダール」或ハ
B-29ノ出現等、情報ニ照シ、著目ノ要アリ

二月中緬甸内敵機出撃状況

計	下旬	中旬	上旬	巴分
八三四	二五七	三〇三	二七四	未襲回数
三六二六	一〇九〇	一三二一	一八一五	未襲機数
一七八	五八	六四	五六	偵察機
一六八七	五五二	六二二	五一三	戦闘機
一七六一	四八〇	六三五	六四六	爆薬機
				記事

最近支那に於ける大型飛行場の整備又B7型に進出豫想
 等ヲ綜合スルニ支那ヨリスル對日空襲或ハ支那沿岸ノ航
 行遮断等ハ漸次緊迫シアルモノ如ク又支那戦線ノ大卒
 洋方面トノ关联性漸次濃化セルヲ觀察セラル
 印支空輸路ハ新航路ノ開拓ト共逐次ワンスキヤリ昆明航
 路通過機減少セルモノ如シ

米國、印支空輸路増強ニ應スル重慶側ノ入支予定口四日
中相當數ノ製油資材含マレアルハ注目ヲ要ス重慶地上軍
ノ教育規模ヨリ觀察シ米製兵器彈藥モ亦今後相當量
輸入サルモノト予想セラル

1371

(ホ) 艦船狀況

「チッタゴン」「ナーフ」河及「コックスバザ」方面敵船舶ノ出現狀況
前回ニ比シ稍増加シ「カルカッタ」「チッタゴン」方面對スル兵力
増強ニ任ズツアリ三日「チッタゴン」在泊船舶一〇、〇〇〇隻級以
上三隻一〇、〇〇一五、〇〇〇隻級六隻五、〇〇〇隻級以下一四隻計約
五五、〇〇〇隻ニ三隻ニ及ベリ「ナーフ」河九日一〇、〇〇〇隻級九隻
七、〇〇〇隻級二隻又三、〇〇〇隻級二隻其他小型舟艇約二〇隻計
約一五、〇〇〇隻「コックスバザ」十八日一〇、〇〇〇隻級二隻五、〇〇〇隻級
七隻計約五、五〇〇隻又三日「ラム」島對シ小艦艇ノ銃

砲撃二十日未明、印度シニ對シ小兵力ノ上陸(直ニ退去セリ)ニモ
日「アキヤブ」西方ニ對シ銃砲撃ヲ實施シ我カ沿岸防備狀況、
威力偵察及擾乱ヲ企圖セリ「ベンガル」灣北部ニ於ケル敵艦船ノ
出現狀況ハ哨戒艇一日平均七八隻ニテ「チッタゴン」附近ニ
於テ活潑ナリ

(ハ) 印度國內情勢

「ベンガル」州ニ於ケル食糧飢饉及傳染病ハ依然ニ激化ノ傾向ニ
アルモノ如ク政府ハ外政軍ニ對スル糧米輸送禁止或ハ防
疫ノ爲軍隊ノ援助ヲ求ル等其ノ對策ニ腐心シアルモノ如
ク鐵道輸送力増強ノ爲「ベンガル」「ナガポール」鐵道「ベンガル」「ア
ッサム」鐵道ヲ複線ニ「アッサム」「カニナ」間ヲ複線ニ工事中心ニテ尚
旅客輻輳ノ爲軍事輸送ニ支障アル地区ハ「バスマ」運轉ヲ増

加スル計畫ナリト又印度内ニオケル軍需品生産ヲ強化印度
人空軍ノ擴大等ヲ実施シ對日又攻戦カノ倍養ニ努メツアリ

1373

(1) 敵側動向

北緬甸又攻ニ関シ英國ハ差當リ緬甸ニ於ケル生産破壞ノ目的
ヲ以テ空襲激化ノ必要性ト印支空輸ノ増勢トヲ主張シ必ズモ又
攻ヲ急グニ非ザルトナスニ又レ蔣介石ハ地上ルートヲ再開ノ外日本
軍ノ粵漢線ノ打過企圖ヲ予見シ之ヲ阻止ノ為速急ナル又
攻ヲ希望シアリテ未ダ兩者共其ノ意見ヲ放棄シアラサルガ如
シ

(2) 我が軍ノ状況

(1) 友軍部隊

北部印緬國境方面菊兵団ハ「タイパカ」北方地区ニ於テ隨
時奇襲ニ出テ敵攻勢態勢ノ攪乱ニ努ムルト共ニ主カテ以テ

又撃態勢ヲ強化シツツ概ネマイカンニ周辺ニ轉進ヲ完了シ追
尾セル敵ニ對シテハ隨時又撃ヲ加ヘツツ爾後ノ作戰準備中ナ
リ

中部印緬國境方面戸ノ兵團ハ一部ヲ以テ近時稍活況ヲ呈
セルヲオートホワイトト及「キョークチヨウ」ニ正面ニ執拗ニ出撃シ
来レル敵ヲ撃退シツツ次期作戰準備ニ邁進ニアリ

南部印緬國境方面植兵團ハ四日早朝當面ノ敵ニ對シテ攻
勢ヲ開始一部ヲ以テ「トングバガ」ニ突入直ニ「マ」河ヲ渡河又
転南下シ敵主力ノ北月後ノ線ニ進出「アチド」ニ西北地ニ攻
勢ニ転移セル部隊ト共ニ南北ヨリ呼應シ敵ヲ包圍攻撃スル
ト共ニ「マ」山系横断道ヲ遮断隨所ニ敵ヲ分断殲滅シツツア
リシ處ニ十五日遂ニ「シ」ニ附近ニ敵第七師團ノ大部ヲ殲
滅敵今後ノ企圖ニ對シテ大ノ打撃ヲ與ヘ目下次期作戰ノ

準備中ナリ

(四)海軍部隊

緬甸沿岸防備警戒泊地補給基地ノ防衛整備ニ関シテハ
計畫ヲ密ニモ下各部隊ヲ適切ニ指導スルト共ニ關係
陸軍部隊ト連繫ヲ計リ海上交通ノ安全保護ヲ圖サズニハ
決シテ面ヨリ未襲スル敵艦船航空機及上陸軍ヲ撃滅スベク
急速戰備完ニカマツアリ敵ハ船舶輸送妨害ノタメ蘭真
河ナルワイニ河口等ノ閉塞ヲ企圖シ近時益ニ飛行機ニ依ル
磁氣機雷敷設ヲ實施シ之カ對策ニ腐心シアリシ所二月九日
シツタンニ河岸ニ於テ米國製磁氣機雷一月十日投下セラレタル
モノノ揚收ニ成功爾來當司令部ニ於テ鋭意研究ノ結果其
ノ性能ノ詳細ヲ知り得テ爾後ノ掃海等ニ裨益スル所甚大ナ
ルモノアリタリ(第四項參考ノ欄參照)

緬甸内海軍部隊ノ補給ハ輸送機関僅少ハ。此機帆船一
 アラカン輸送(自動車五)ノタメ意ノ如クナラズ其ノ大半ハ陸軍
 部隊輸送機関ニ依頼辛ウレテ補給ヲ持續シアル現状ナリ
 其ノ他各種施設ノ雨季ニ對スル對策ハ慎重ニ研究実施シツ
 アリ

三日第十三警備隊ハ高度百米一三〇米ニテ「カツ」ニ乘
 襲セル「ロッキード」P38八機ト二十五耗機銃ヲ以テ交戦内ニ機ヲ墮
 墜ス(九日見張所)(五)一ヲ十七警備隊ニ配屬セル(十四日)
 第十七警備隊ハ「カツ」ニ防備衛所ノ設置ヲ了ス同日第
 十三警備隊ハ高度一五〇米ニテ「カツ」ニ乘襲セル「ロッキード」
 二機ト二十五耗機銃ヲ以テ交戦内ニ機ヲ撃墜ス同日第十三警
 備隊ハ「キヤッパ」(ラムレ島)「キヤツカレ」間ノ小型機雷敷設ヲ
 了ス

第十六日 第十三警備隊ハ蘭貢河ノ予定掃海終了ニ一般船舶ノ航行
禁止ヲ解キ當分ノ間ハ危険水域ハ日施掃海ヲ行フ

第十七日 第十三警備隊ハ高度三〇〇一五〇〇米ニテ「タンガツ」ニ
米龍衣セル「ヒューライヤ」三機ト二十五機ヲ以テ交戦内ニ機ヲ墮
破ス

二十五日 第十三警備隊ハ「アキヤ」島ヲ除ク第一回小形米機雷敷
設終了ス

三 作戰指導寸

(1) 各部隊ノ区分及任務

区分	指揮官	兵力	主要任務
緬甸根據地部隊	緬甸根據地部隊指揮官	B2 13 K2 12 K2 13 K2 17 C2 12	緬甸沿岸防備整齊 緬甸沿岸沿地及補給 基地整備防衛

第二十一隻 雷艇隊	北部沿岸 警備部隊
--------------	--------------

第二十八隻 雷艇隊司令	北部沿岸警 備部隊指揮官 (第七警備隊司令)
----------------	------------------------------

魚雷艇五隻 基地隊	陸警言科 十五種裝機銃 八基 九基 水警言科 十五種裝機銃 二基 中刑砲艇三隻 全三種機銃各二門 大砲 四隻 全三種機銃各二門 附屬隊 貨物自動車一〇台
--------------	--

未攻敵艦船ノ真減 要地ノ確保	(一) 緬甸北岸北部防備 警言科 (二) 海上交通ニ関シ陸 軍部隊援護 (三) 海上交通保護 (四) 緬甸方面軍トノ連絡
-------------------	---

<p>南部沿岸 警備部隊</p>	<p>中部沿岸 警備部隊</p>
<p>南部沿岸警備 部隊指揮官 (第十七警備隊司令)</p>	<p>中部沿岸警備 部隊指揮官 (第十七警備隊司令)</p>
<p>陸警言科 押収四寸高角砲 八種高角砲一門 三寸高角砲裝機銃 二基 水警言科 中型砲艇一隻 十三種裝機銃 二基 大飛龍 四隻 附屬隊 貨物自動車一〇台</p>	<p>陸警言科 押収四寸高角砲 八種高角砲一門 三寸高角砲裝機銃 二基 水警言科 中型砲艇一隻 十三種裝機銃 二基 大飛龍 四隻 附屬隊 貨物自動車一〇台</p>
<p>陸警言科 押収四寸高角砲 八種高角砲一門 三寸高角砲裝機銃 二基 水警言科 中型砲艇一隻 十三種裝機銃 二基 大飛龍 四隻 附屬隊 貨物自動車一〇台</p> <p>陸警言科 押収四寸高角砲 八種高角砲一門 三寸高角砲裝機銃 二基 水警言科 中型砲艇一隻 十三種裝機銃 二基 大飛龍 四隻 附屬隊 貨物自動車一〇台</p>	<p>陸警言科 押収四寸高角砲 八種高角砲一門 三寸高角砲裝機銃 二基 水警言科 中型砲艇一隻 十三種裝機銃 二基 大飛龍 四隻 附屬隊 貨物自動車一〇台</p> <p>陸警言科 押収四寸高角砲 八種高角砲一門 三寸高角砲裝機銃 二基 水警言科 中型砲艇一隻 十三種裝機銃 二基 大飛龍 四隻 附屬隊 貨物自動車一〇台</p>

第三十四 防空隊	第十 通信隊
第三十四防 空隊長	第十二通 信隊司令
射撃隊 毒氣射砲 六門 毒氣裝機銃 二基 九。探照燈 二基 附屬隊 貨物自動車四台	本隊 第一分遣隊 第二分遣隊 貨物車一
「ルグ」地区防空及 港灣防備	「蘭貢方面味方通信 中樞 對敵(印度及印度洋) 通信

(四) 作戰命令ノ要綱

九日 17時 機密第九一三三番電 依リ見張所(戊)一ヲ 17時 配屬セル
 十日 13時 機密第三三三番電 依リ十(特工)蘭貢員派遣ヲレテモル

シテ雷沈没セルハ船霧島丸救難作業ニ従事セルム
十三日9K9機密第一三〇四番電ニ依リカルクイ地区飛行制限決
定

十四日1K9電令第二號依リ17K9司令ヲテ「ハステング」防備衛所ヲ設
置セムベキト日受令ス

今日13K9電令第二號依リ17K9司令ハ既定計畫ニ基キ「ハステング」
泊地ニ防備衛所ヲ設定スベクスルベシ
十九日根命令依第七號依リ各隊警備担任区域ヲ左ノ通
改ム

「ヤマガサ」(含ム)以北 17K9

「シッタ」(含ム)以西「ヤマガサ」(含ム) 17K9

「シッタ」(含ム)以南 17K9

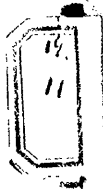
軍極秘

中務省調査部長殿
第十二根據地隊機密第八號
自昭和十九年十一月一日
至昭和十九年十一月三十日

二月九日送付

第十二根據地隊戰時日誌

第十二根據地隊司令部



19.
11.

目次

- 一 叙述 過
- 二 人員、現狀
- 三 今々達報告等
- 四 参 考
- (一) 戰 訓
- (二) 寫 真
- 五 作戰經過概要
- 六 會計叙述理

(目次終)

自昭和十九年十一月三十一日第十三根據地隊戰時日誌

一 経過

(一) 敵情

雲南遠征軍及北緬英印米支聯合軍ノ相策應ニ新
攻勢ハ十月下旬以後逐次活況ヲ呈シ来レリ海正
ニ對スル敵動向ハ未ダ顯著ナラサルモ南西沿岸ニ對スル謀
者潜入等敵小艦艇ノ策動逐次活潑化セントシツアリ
敵空軍ノ増強ハ雨期明以未相當見ルベキモノアリテ敵
地上軍ノ攻勢發起ニ伴ヒ益々執拗熾烈ニ未襲ニ其
ノ量的優勢ヲ恃ミ戰術空軍部隊戰略空軍部隊
ニ分レ前者ハ北緬戰線ニオケル直協、后者ハ主トテ航空
撃滅戰補給路ノ遮断ニ指向シテリ

敵機ノ出撃ハ昨年十月ト比較ニ於テ一五倍ヲテナセリウ
ハ方面ニ於テハ実ニ二六倍ニ達セリ北緬航空基地ノ整備
要塞化ニ伴ヒ益々増加ノ傾向ニアリ
現在一日平均三〇〇機内外ニシテ地域別ヨリ之ヲ見レハ
陸上第一線飛行場攻撃後方出撃ノ順ニシテ泰緬線
ヲテナセリウハ方面ヘノ出撃ハ愈々執拗ナルモノアリ

1385

(1) 未襲撃機数

緬甸内敵機未襲撃状況(担任区域内)

總延機数

1,596

通過

1,203

偵察

159

爆撃

234

不明機 單機 双機 四機

259 107 111 726

不明機 單機 双機 四機

39 13 78 29

不明機 單機 双機 四機

2 0 37 195

(口)

合計	不明機	スピットファイヤ	ビエーファイヤ	グレナハイム	B 1 25	ア ラ マン	P 1 40	P 1 38	モ ス キ ト	B 1 26	B 1 29	B 1 24	機 種 日 次
6	2								2			2	1
56	12							1	7		15	21	2
251	43						18	11	1		139	39	3
141	12			1		9		24	8			87	4
32	16								4		1	11	5
60	7				36							17	6
13	3							2	6			2	7
92	26			1	5				3			57	8
39	20							6	7			6	9
36	7	1			1			12	6			9	10
26	6			2	1			5	5			7	11
18	4							2	3		4	5	12
86	12						4	8				62	13
12	5		2						3			2	14
17		1		2								14	15
62	8							2	5		1	46	16
21	14							4	2			1	17
22	7			2	1			8				4	18
128	16				1		8	14				89	19
23	13				1			1	4			5	20
42	8		2		1			3		2		24	21
53	14							3	2			34	22
78	18						15	8				37	23
34	9							1				24	24
21	9		3					5	1	1		2	25
29	7			1					1	1		19	26
122	8		1								53	60	27
8	3							1		1		3	28
59	13							2			13	31	29
9	3					2			3			1	30
													計
1396	324	2	10	9	47	11	45	123	73	5	226	721	

各機種別總機數

1387

(一) 未襲時刻

時刻	機種	四発機	双発機	単発機	不明機
〇〇〇〇〜〇六〇〇		三五		四	四三
〇六〇一〜一二〇〇		一四	五〇	一〇	五〇
一二〇一〜一八〇〇		六五	六七	八四	一五四
一八〇一〜二四〇〇		三五	七	八	七〇

(二) 攻撃成果

日地	機種	機数	撃隊	撃破	記	事
四 水 警 告	B	二	〇	〇	九三式機雷二個誘爆撃傷云	
五 湯屋部隊附近	B	一	〇	〇		
六 高射砲隊陣地東方	BB	三	〇	〇		
三 アムハースト	EB	一	〇	一〇		

一五	ムルギー	B	1	24	一四	二	二	真敵ハ又方共眼涙不能ト記スルコ ラシクシテ方日ニ和ニ島野人ハ大規模 ニ敵方ノ捕獲ニ努力シ且音聲肥人ノ殺害 高射砲部隊ヨリテ發動後一燃焼 セリテ確認
一六	臨赤隊附近	B	1	24	一	0	一	
二一	モールメン	B	1	24	三	0	一	真隊ノ計算大ナリ
二三	コーファージ	B	1	24	三〇	0	三	
二四	BK9 火葬場附近	B	1	24	一	0	0	
二七	湯屋部隊附近	B	1	29	一	0	0	
三〇	エレファント ホインント	B	1	29	一三 (不獲)	0	0	好敵戦ノ結果敵機二命中弾 多数ヲ與フル爲メ煙ヲ吹キツ 遁走セシモ基地取還不能ト記ス

(三) 我軍ノ状況 (海軍部隊)

一、方面軍ノ數撃配備一部改更セラルルニ供ヒ從來ノ依

戦方針中左記ヲ變更ス

(1) 防備 要點ヲヨリテ地帯ニ要之ガ爲メ第十三航空
部隊主力ヲムルタヒテ帯ニ配備シテツシガツカニ方面ハ一部ヲ

残留セシメ固定防備実施区域トセリ

(2) 海上機動部隊ノ配備ヲ「シンカイン」以東ノ北岸ニ變更

(3) 麾下各警備隊ノ担任区域一部ニ變更サル

第十三警備隊「カレガク」島北端ヲ通ズル東西線以北ヨリ「ビヤホン」河(兩岸ヲ含ム)以東迄

第十三警備隊「ビヤホン」河(兩岸ヲ含ム)以西緬甸北岸

第十七警備隊「カレガク」島北端ヲ通ズル東西線以南

第二十(魚雷艇隊)ノ解隊ニ伴ヒ艇隊ハ三隊ニ分チ第十三警備隊、第十三警備隊ニ夫ニ配屬ス

三「テナベリ」ウムニ方面ニオケル敵潜水艦航空機ノ跳梁ニ鑑

基地、増設防空火器、増強弾力性を輸送体型、確立を努力す

三、作戰指導

各部隊ノ任務並ニ区分

区分	指揮官	兵力	任務
緬甸根據地部隊	緬甸根據地部隊指揮官		
北部沿岸警備部隊	北部沿岸警備部隊指揮官	陸警隊	<ul style="list-style-type: none"> 一 緬甸沿岸防備警戒 二 緬甸沿岸泊地補給基地航空基地、整備防衛 三 海上交通保護 四 緬甸方面軍ト連絡
陸警隊		十二營派遣隊	<ul style="list-style-type: none"> 一 緬甸沿岸北部防備警戒 二 海上交通ニ関シ陸軍部隊援護 三 緬甸沿岸各地ノ防備

警備部隊 中部沿岸	第五雷艇隊
--------------	-------

警備指揮官 中部沿岸警備	第五雷艇隊司令
-----------------	---------

水雷隊 甲基地 二 乙基地 三 手榴彈裝機銃六基 中型砲艇 二隻 主砲艇裝機銃各一基 大 兎丸 八隻 全機機銃各一基 附屬隊 貨物自動車一〇台	魚雷艇六隻 基地 隊	陸 警備隊 手榴彈裝機銃八基 押収四吋高筒砲一門 八種高筒砲一門 水 警備隊
--	---------------	--

四 第十三警備隊附 防空 未攻敵艦船ノ喪滅 要地ノ確保 (一) 中部緬甸港灣水路ノ 防備警備 (二) カンガッパ方面海軍部 隊對シテ中継補給 (三) 所在海上交通保護

	<p>中支雷艇隊 司令官 蓮田 隊</p> <p>南部北沿岸 警備部隊</p>
<p>(土警備隊司令)</p> <p>先任艇長</p>	<p>南部北沿岸警 備部隊指揮官 (土警備隊司令)</p>
<p>甲基地 一 五五特裝機銃室 大砲 八隻 特掃 四隻 附屬隊 貨物自動車一〇台</p> <p>魚雷艇六隻</p>	<p>陸警隊 土五特裝機銃四基 七種野戰高砲六門 九十種探照燈三基 三五特裝機銃六基 三五特裝機銃四基 水警隊 大砲 二隻 附屬隊 貨物自動車九台</p>
<p>(四) 港灣及水路維持三関 陸軍部隊三協力</p>	<p>(一) 南部編組北沿岸防備警 戒 (二) 〓ルグイ泊地航空基地及 編組方面部隊補給基地 地整備防衛 (三) 艦隊泊地防衛整備 (四) 海上交通保護 (五) 〓ルグイ地区及〓ルグイ蘭 貢間連絡補給基地 防衛防衛</p>

(四) 作戰命令之要綱

十月三日 比根電令作第四三號ニ據リ

南部沿岸艦隊司令部指揮官ヲシテ「カボ」岬東側
 至「カボ」附近ニ連絡補給基地ヲ整備セシム

十月六日 十三根電令第四六號ニ據リ

九三式機雷一四〇個ヲ「カボ」附近沿岸水道ニ敷

通信部隊	補給部隊 七〇特駝隊
第十三通信 隊司令	七〇特駝隊 長
本隊 第一分遣隊 第二分遣隊 貨物自動車一台	海上輸送 海上護衛 蘭真方面味方通信 中樞 對敵(印度及印度洋) 通信

1394

設セシム

十月八日

機密緬甸根據地部隊命令第四〇號ニ據リ
中部沿岸警備部隊指揮官ヲシテ大衆一隻ヲ以テ
「デルタ」沿岸兵要調査ヲ実施セシム

十月十日

機密緬甸根據地部隊命令第四二號ニ據リ
中部沿岸警備部隊指揮官ヲシテ「シツ」河口
渡河點附近ノ磁氣掃海ヲ実施セシム

十月十五日

山根電令第四四號ニ據リ
第三十一魚雷艇隊解隊ニ伴フ當隊軍隊区分ヲ
改ム

十月十五日

十三根電令第四七號ニ據リ
蘭貢回航大衆隊ヲ二回ニ分ケ速ニ進出セシム
機密緬甸根據地部隊命令第四四號ニ據リ

十月十四日

中部沿岸警備部隊指揮官ヲシテ「シツ」河口ノ

人員ノ現状

一司令部

(1) 主要職員官氏名

職	主務	官	氏名	記
司令官		中將	田中頼三	
参謀長		少將	中堂觀惠	
参謀	全般	大佐	左座 弘	
同(兼)	通信	同	遠藤 滋	
				事

十月三日

水路調査ヲ実施セシム

機密第十三根據地隊命令第六二號ニ依リ

二十五耗聯装機銃移動架台ノ製作ヲ促進シ

急速整備ヲサシム

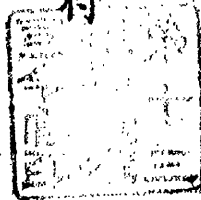
同	同	同	同	同	同	同	同	司令部附	主計長	軍医長	同	同	
	内務	砲水機	暗号	通信	衣糧	看護	化兵	副官補佐	庶務		補給	戦務	
大尉	機曹長	同	同	兵曹長	主少尉	衛少尉	少尉	同	主中尉	主大尉	同	少佐	
田中雄三郎	山田三郎	西村五郎	井川正一	江藤重俊	前田友市	佐田宗信	南川紀敏	神崎敬直	細川政次郎	吉見博之	上原梓	多田一男	田中俊三
												兼副官	

軍機

第十二根據地隊機密第八號ノ五

自昭和二十年一月一日
至昭和二十年一月三十一日

月 日 送付



第十三根據地隊戰時日誌

第十二根據地隊司令部

19.
11.

目次

- 一 経過
- 二 人員ノ現状
- 三 令達報告等
- 四 参考
- (一) 戦訓
- (二) 寫真
- 五 作战経過概要
- 六 會計整理

(目次終)

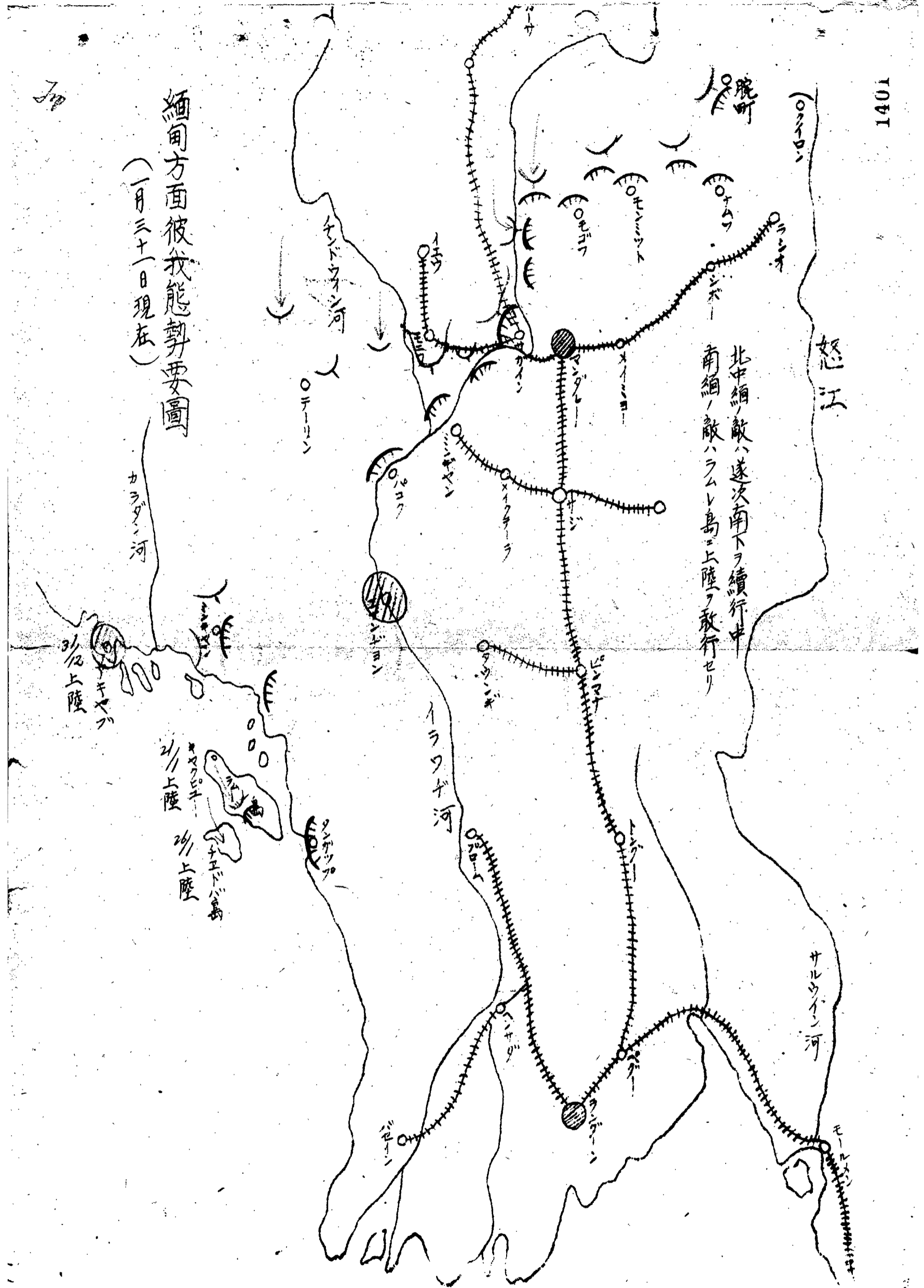
自昭和二十年八月三十一日

第十三根據地隊戰時日誌

経過

北中緬ノ敵ハ有力ナル航空機ヲ利用シ隊次
南下ヲ續行中ニシテ其ノ先鋒ハ既ニ「マングレ」ニ迫リ
之ニ呼應シ「イラワヂ」デルタ地帯ヨリスル敵上陸作戦
モ愈々機熟シ切迫シタルモト判断セラレ
麾下各隊ハ急遽戰備ノ促進強化ニ務メツアリ

(詳細附圖参照)



緬甸方面彼我態勢要圖
 (一月三十一日現在)

北中緬ノ敵ハ遂次南下ヲ續行中
 南緬ノ敵ハラムレ島ニ上陸ヲ敢行セリ

3/12 上陸

2/1 上陸

2/1 上陸

人員ノ現状

司令部

主要職員官氏名

前月ニ同シ

下士官兵其他ノ員數

兵種	水兵科	機關科	主計科	其他	計	記事
員數	三三	四一	一一	六	九一	十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

種別	士官	特准	下士官	兵	其他	計
十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百	二〇	二九	三五三	四七一	三八	九〇四 内兵補一七
十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百	二〇	二八	三四四	四三三	一三	八三八 内兵補五
十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百	一六	三五	二七九	七〇二	六八	一一〇〇 内兵補七
十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百	七	一〇	七五	一三三		二一四

三 作戰指導

1) 各隊の区分及任務

前月二回

四 作戰命令の要綱

一月八日

總司令部根據地部隊命令第一號ニ據リ

一月二十日

各隊司令部根據地部隊命令第一號ニ據リ

一月二十日

北朝鮮沿岸各隊司令部根據地部隊命令第一號ニ據リ

一月二十日

給水路、格、護強部隊司令部根據地部隊命令第一號ニ據リ

一月二十六日

總司令部根據地部隊命令第一號ニ據リ

一月三十日

各隊司令部根據地部隊命令第一號ニ據リ

三 令達報告等

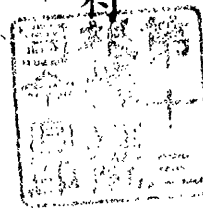
省 略

軍極秘

至昭和二十年二月二十八日

第十二根拠地隊機密第八號ノ六

年月日送付



第十二根拠地隊戦時日誌

第十二根拠地隊司令部

(17)

1404

目次

一 経過

二 人員の現状

三 本連報告書等
作戦命令の要綱

四 本連報告書等
作戦経過概要

(イ) 戦言

(ロ) 宿真

五 本連報告書等
作戦経過概要

六 本連報告書等
作戦経過概要

目次終

自昭和二十年三月二十日 第十三根據地隊戦時日誌

一 経過

敵ノ南下攻勢ハ頗ル急ニシテ北緬ノイラワヂ河兩岸ヲ攻略
 着々「マングダレ」包圍態勢ヲ確立シテ企圖シヤリ、二十七日部
 ノ敵ハ「メイクテラ」ニ侵入、我守備隊ト交戦中ナリ
 北西沿岸ノ敵ハ「ラムレ」ヲ占領シ、島上陸以來、遂次兵力ヲ増
 加シ「カツプ」方面ニ対スル上陸ヲ企圖シアルモノノ如シ

(詳細附圖参照)

二 人員ノ現状

一 司令部

(1) 主要職員官氏名

職	主	務	官	氏	名	記	事

四) 下士官、兵、其他ノ員數

員數	三三	四八	一八一	六	九一	記
兵種	水兵科	機關科	主計科	其他	計	事
						十七三警隊道員 十七警隊道員 十六補隊道員 三三七

(三) 陸下總員數

種別	士官	持准	下士官	兵	其他	計
十二教言	三二	三〇	三五八	四八〇	三三	九三六
十三教言	一八	二九	三四九	四三〇	九	八三五
十七教言	一六	三五	二六五	六八二	八四	一〇八二
十二補	七	一〇	七五	一三二		二一四
						内兵補 一七 内兵補 五 亦兵補 七

三) 作戰命令ノ要綱

二月五日

二月六日

機密出第十三根據地隊命令第三號ニ據リ
陸下各部隊宛各種作戰用燃料ヲ供給ス
緬甸根據地部隊電令第四八號ニ據リ
六七日正河ノ防備促進及ガカノ島基地隊ノモルル正河ノ移動ヲ實施
七五日正河ノ防備促進ヲ下令ス

二月六日

二月十八日

二月十九日

二月十九日

二月二十三日

二月二十七日

二月二十八日

十三根電令第五九號ニ據リ

機外船第七日豊丸(吉徳丸機子丸)並ニ貨物自動車(十四台)ニヨリ

北根電令夜第四九號ニ據リ

シカドニ配備中ノ九三式十三根機銃四基撤收ノ上マシカレト線

北根電令夜第五三號ニ據リ

敵機低空跳梁ニ鑑ミ積極的襲撃好機捕捉ヲ企テルト共ニ右

任務達成ニ爲シ指定配備以外ノ防空火器ヲ機宜使用セシム

北根電令夜第五一號ニ據リ

第十三根電令夜第六一號ニ據リ

第十三根電令夜第三五〇二號ニ據リ

第十三根電令夜第三五〇二號ニ據リ

第十三根電令夜第三三號ニ據リ

第十三根電令夜第六三號ニ據リ

第十三根電令夜第六三號ニ據リ

第十三根電令夜第六三號ニ據リ

第十三根電令夜第六三號ニ據リ

第十三根電令夜第六三號ニ據リ

第十三根電令夜第六三號ニ據リ

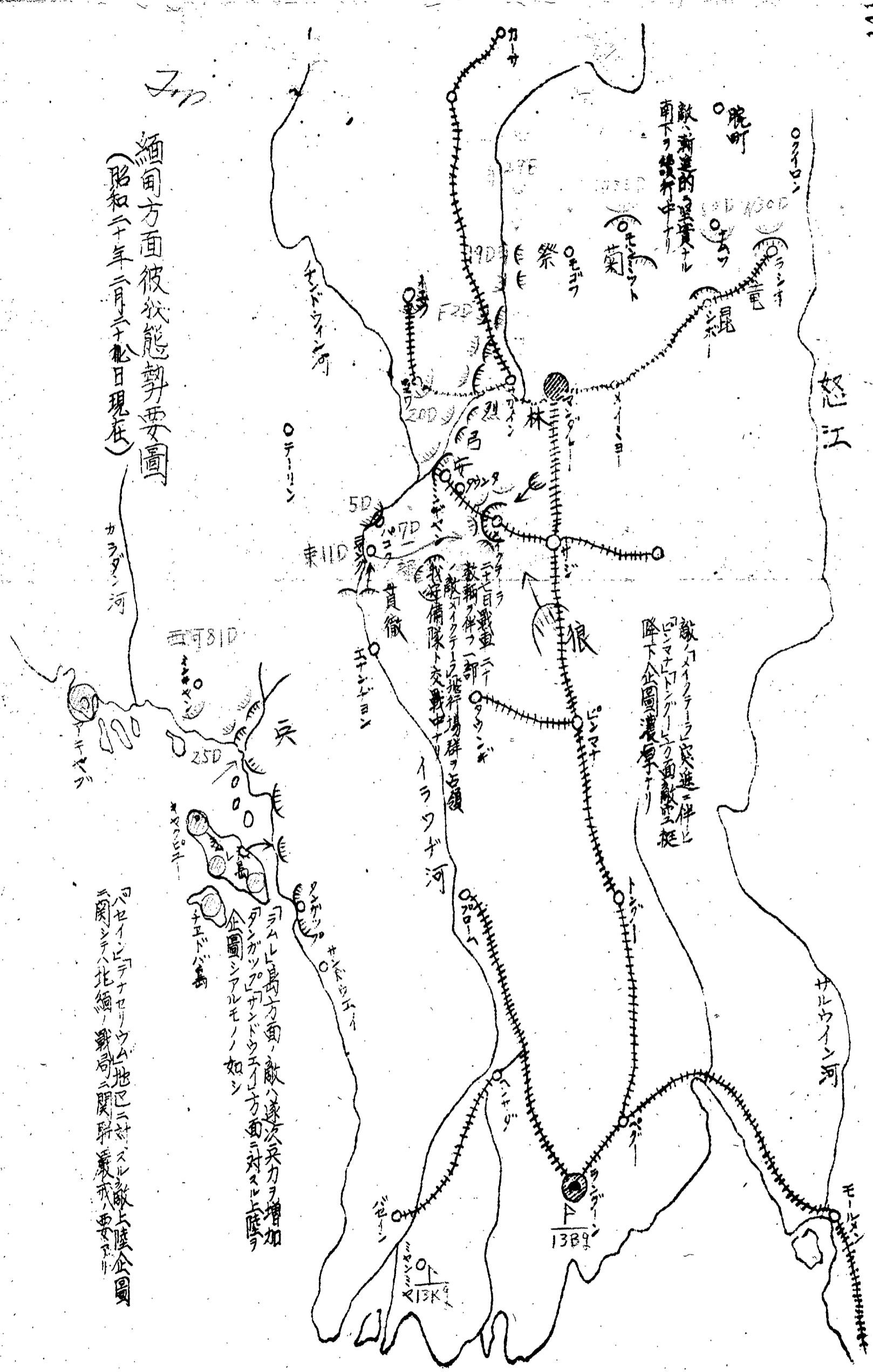
第十三根電令夜第六三號ニ據リ

第十三根電令夜第六三號ニ據リ

第十三根電令夜第六三號ニ據リ

第十三根電令夜第六三號ニ據リ

緬甸方面彼我態勢要圖
(昭和二十年三月二十七日現在)



ハセイニシテナセリウムハ地ニシテスル敵上陸企圖
ニ関シテハ北緬ノ戦局ニ関シテ兼テ西アフリ
カニ至ルモノ如シ

シトウン河上流方面ニ敵ハ速次兵力ヲ増加
ダンガンツノサンドウエニ方面ニ対スル上陸ヲ
企圖シアルモノノ如シ